

# 全国の子供たちが五色百人一首でつながった！

## オンライン五色百人一首・交流会 大盛況！

●開催日 2021年1月23日（土）

●参加者数

<中日本> 会場

①44名（参加者28名、スタッフ16名）

<西日本> 会場

①70名（参加者59名、スタッフ11名）

<東日本> 会場

①46名（参加者33名、スタッフ13名）

※参加者人数は子供のみカウントしました。



毎年全国各地で開催される五色百人一首大会。

2020・2021年はコロナ禍により、地域によっては開催を断念せざるを得ない状況となりました。

そのような中でも各地でZOOM等を利用した「オンライン」で様々な地域の子供たちがつながって、五色百人一首を楽しむ動きが出てきました。

五色百人一首協会の試みとして、2021年1月23日（土）に全国の子供たちが同じ日・同じ時間に五色百人一首で交流を楽しむ「オンライン・五色百人一首交流会」が開催されました！

運営事務局を<東日本> <中日本> <西日本> と、3つの事務局に分け、それぞれの地域に住む子供たちや保護者、学校の先生が、五色百人一首を楽しみました交流会に参加された先生、事務局の先生の感想を紹介いたします。

●中日本会場 中島康先生

東日本事務局の水本先生からご依頼が有り、事務局長を拝命した中日本交流会が先ほど終了した。

今回、静岡の先生方をはじめ、毛利先生、M先生、I先生にもご参加いただき、無事に終了することができた。1時間の内容であったが、参加者の皆様のアンケートを見ると概ね好評だったようだ。

コロナ禍で接触する形でなくてもオンラインで百人一首ができると谷和樹先生が、ご提案くださってから7ヶ月。ついに今日、全国同時に開催できたことになる。

今日は、機器操作で困るご家庭もあったが、事務局スタッフの皆様が上手に対応くださり、なんとか終了できた。

今後、リアルな大会だけでなく、こうしたオンラインの会も可能性があるなと実感した。また、機会を作り、百人一首のファンを増やしていきたいと感じた。

## ●中日本会場 広畑宏樹先生

全国同時開催、本当に素晴らしい企画だった。

中日本は、TOSS静岡の中島康先生が事務局長を務められた。中島先生は、私がサークルに入った当初からお世話になっている先生だ。少しでも力になればと参加した。

私は事務局の一人として参加した。

担当した最初のレクで、「あと出しじゃんけん」を行った。あまりテンポアップすると通信環境で聞き取りにくかったかもしれない。が、後半はテンポを上げて変化させた。楽しんでもらえたようでよかった。

最後に、「じゃんけんも、かるたも、勝っても負けても、楽しめますように」とメッセージを伝えて終えた。

次に、I先生が五色百人一首ビンゴをされ、場はますます温まった。

休憩の後、ブレイクアウトルームへと分かれ、模擬戦を行った。低学年もいた参加者の様子を見て、声を掛けながらの試合進行とした。

自身が運営していた五色百人一首教室のスタイルだった。和やかな雰囲気、集中して勝負する場面と変化をつけた。

1時間半の会は、あっという間に終了した。

「とても楽しかったです。もっとやりたいです」そんな感想がたくさん寄せられた。

長野のM先生と、こういう交流会をまたやりたいですねと話した。ぜひ実現させたい。輪が広がって行く。

## ●中日本会場 毛利康子先生

五色百人一首<中日本>オンライン交流会に参加。

事務局の中島先生はじめ、静岡の先生方のきめ細かい準備・対応のおかげで、大成功。子供たちが楽しそうに取り組んでいた。素敵な交流会をありがとうございました!!

ZOOMの入室や名前の変更なども、温かい対応。中島先生、K先生、広畑先生らが声をかけられる。

私の住む石川県からも1名、子供が参加された。ありがたい。

中日本交流会は下記の1~8の流れで行った。

- 1.ZOOMの使い方確認
- 2.ご挨拶
- 3.自己紹介
- 4.I先生の青札ビンゴ、3×3、4×4
- 5.H先生がブレイクアウトルームを開設。
- 6.5つの部屋に分かれての模擬対戦
- 7.桃札 K先生、A先生
- 8.閉会式、賞状授与、写真撮影

ブレイクアウトルームでは、上の句だけで札がとれる児童・生徒もたくさんいて、取れた時の笑顔が素敵だった。

今、覚えている最中の児童もいた。

10枚~⑩、11~20、それから高速11~20、高速20枚というように少しずつレベルが上がっていった。一つでも多く札をとろうとがんばっている姿もほほえましかった。あっという間の1時間。素敵な思い出がいっぱい。

2月28日におこなわれる、石川県オンライン交流会にも活かしていきたい。

中島先生、H先生、静岡の先生方、たくさんのお世話をありがとうございました。

## ●西日本会場 寺田真紀子先生

西日本交流会に参加しました。  
五色百人一首ビンゴや五色百人一首のエピソードやクイズなどを行った後、  
黄札と青札で五色百人一首の模擬対戦を行いました。  
早くって得意そうに札を見せている子もたくさんいました。

最後はYouTube「ガラガラボイス」でおなじみの糸井校長先生による五色百人一首にまつわる授業。  
五色百人一首の詠み方のリコーダーの演奏もあり、楽しい1時間を過ごしました。

本来なら各地の会場で大会があるはずでしたが、今年はコロナの影響のため集まって大会を行うことができません。

大阪大会も、1月の正月あけて最後の最後まで「何とかして開催できないか」と方法を模索しました。  
午前午後での開催、人数を大幅に減らして、無観客で…などなど、何度も話し合いましたが、緊急事態宣言が大阪にも出たことにより、会場開催は中止と苦渋の判断をしました。

でも、オンラインでも五色百人一首でつながれたということはとても嬉しいことでした。  
今回のオンライン西日本交流大会の様子が朝日新聞朝刊および朝日新聞デジタル版に掲載されました。

「知ってる？五色百人一首 オンラインで初の交流会：朝日新聞デジタル (asahi.com)」

早くコロナが収束して、また、各地の五色百人一首大会で熱戦が繰り広げられるといいですね。

## ●西日本会場 兵藤龍二先生

オンライン百人一首交流会に参加しました。  
M先生、糸井校長先生の百人一首のお話に改めて百人一首の奥深さを感じました。  
子供たちにも来週教室で話そうと思いました。

私の勤務校の教室では非接触型の百人一首に1月から変更して、「ちはやふる」の漫画を教室に入れました。今までやる気のない子も楽しそうになるようになっていきました。  
子供たちにむけて、様々な百人一首の弾を撃っていきましょうと思いました。  
本日はありがとうございました。

## ●西日本会場 岡 孝直先生

百人一首オンライン交流会に息子と参加！楽しみまくっている！こんなに楽しいのか！？  
これはぜひ広めたい！リアルで大会ができないのは、マイナスではないと感じた。  
これはチャンスだ！！

オンラインでは百人一首に参加が減ると聞いた。この楽しさを、みんなが知らないからだ。  
だったら教室で擬似オンライン対戦をやってしまえばいい。

まず対戦方法を確立する。

GIGAスクールで一人一台パソコンになる。みんなの顔を写して教師のパソコンに。

(練習はみんなで。対戦してみたい人5人ほど実際に画面にうつす。だれが早いか教師が判断)一番早くとれた、その回数が一番多かった子の勝ち。

定期的にする。

そしてオンライン百人一首大会の紹介。

移動なし。一時間ほどで参加できる。

なら興味がある子はどんどん参加できる。

zoomの入り方さえ覚えておけば、家で自分でタブレットをもって参加できる。

GIGAスクールで試してみたいことたくさん！新しい時代、楽しそうだ！

●西日本会場 藤林民恵先生

オンライン百人一首交流会<西日本>を見学させていただきました。  
事務局の先生方のOBSの技術と知的な授業の集結だった。ありがとうございました。

話す人はピン 手の挙げ方の練習 呼名で出席確認

大阪のO先生による青札を使ったビンゴ

札を出してください。	縦横斜ダブルビンゴを画面の共有
3枚読んだらリーチ	読んでいる札の取札を画面で見せる。
リーチの人に挙手をさせる。	ビンゴ1つの人、手を挙げて
ダブル、トリプル、3つより多い子	ビンゴにならない人もよくがんばりました。

I先生のルール説明

事前に皆ミュート	写真のように20枚ならべてください
取ったら画面に見せてね。	写真
読み始めたら前の札は取れません。	2回読む間に読んでください。
17枚読みます。	

大阪のN先生

青札5枚4段20枚全部使います。	並べ終わったら顔の横に手を挙げてください。
バラバラでよいですよ	まだの人、はいといってください。
読んだ札の取札を見せる	挑戦したことがすごいよ。

大阪の寺田真紀子先生

22年の百人一首大会の写真	力がある。
札をスライドにされてされている	ギャラリービューで札を出している多くの友達を表示
3つを同時に画面に出しておられる	

大阪のM先生

天皇、坊主、女性	蟬丸は坊主か？
面白い！	たくさん調べてあって知的！

糸井校長先生

百人一首は歌です。	こんなメロディーです。
リコーダーを演奏される。	1300年から800年前
集めた人 藤原定家氏	かるたになったのは300年前
五色百人一首は30年前	
これでおわりですのお言葉にちょっと寂しい子どもたちの雰囲気伝わってきました。	

参加賞をお送りされるそうです。  
取材で朝日新聞社の記者の方もおられた。  
大きな会を見学させていただき、ありがとうございました。

## ●東日本会場 岡 城治先生

「楽しかったです！」

チャットにはたくさんの嬉しい言葉が次々と発信されていた。事務局の水本先生からの案内があり、茨城から郡司先生、Y先生と共にスタッフ&詠み手として参加した。

水本先生の司会によるスムーズな会の進行。

S先生によるビンゴでの楽しい導入とシャワーのようなほめ言葉。

郡司先生による基本ルールを確定する詠み手の工夫。

各県スタッフによるそれぞれの県で培ってきた百人一首交流会や大会での工夫の競演。

そして子供たちの笑顔と1つ1つの反応。まさに学びの宝庫だった。

今回は、東日本交流会ということで、東日本の子供たち同士の交流であった。

県内大会や交流会で市をまたいで交流している子供たちも、県をまたいでの交流には刺激を受けたに違いない。いずれは、沖縄の子と北海道の子が対戦や交流。さらには、日本と海外在住の子との交流も可能である。オンラインの可能性をまた感じた会でもあった。

橋本先生からかるた協会との連携の話があった。

五色百人一首茨城大会では、以前にかるた協会から後援をいただいた経緯がある。

今後、県内大会開催では後援や共催も含め、さらに発展させた会を開いていきたい。お互いのイベントのコラボレーションも様々考えられるだろう。まさに五色百人一首の力と繋がりがた。

会の最後で五色百人一首をきっかけに、競技かるたのプロになった桑原圭太郎さんと山添百合さんの紹介があった。このインパクトは大きい。五色百人一首経験者が日本一になったのだ。

五色百人一首が単なる学校だけの取り組みではなく、その先の生き方にまで繋がっている事実だ。

子供たちも今やっていることが、将来何かの役に立つという可能性を感じるができるはずである。

1時間の会であったが、今後の可能性をさらに感じた貴重な会だった。

水本先生をはじめとする事務局の先生方、スタッフとして参加された皆様

本当にありがとうございました。自県での活動に繋げていきます。

## ●東日本会場 野村尚也先生

今回、初めて百人一首オンライン交流会に参加させていただいた。

正直、私にはオンラインの百人一首の経験もノウハウも全くない。この場で役に立たないことはわかっていたが、『五色百人一首が大好き』そんな理由で参加した。

事務局の水本先生の運営は本当に学びになる。

1月のTOSSの冬合宿の運営と並行してやっていたとは思えないほど、丁寧に準備されていた。

当日しか参加していない自分にとっては、本当に頭が下がる思いである。交流会は以下のようなプログラムとなっていた。

<当日のプログラム>

- 1)五色百人一首を使った レク(例 五色百人一首ビンゴ)
- 2)五色百人一首 体験(10枚・2~3回)
- 3)五色百人一首 プレ対戦(1部屋5名程度のブレイクアウトルームに分かれて)

時間の明記がないのは、水本先生の配慮である。

オンラインかつ無料なので、何人当日来るかわからないし、不測の事態が起きるかもしれない。だから、事前にきっちり時間配分を決めるよりも、当日の子供の様子を見ながら進めていた。

最初のS先生のレク

全体の雰囲気として参加者の子供たちにかたさがあったので、S先生の間を盛り上げていく雰囲気は大変勉強になった。

パワポが共有の画面ででないというトラブルも、臨機応変な対応で、次の活動に活かされており、子供への対応を生で見ることができるのは本当に私にとってありがたいことである。

百人一首の札を使っのビンゴは大変面白い。オンラインでなくても、教室でやっても大変盛り上がる。あつという間に熱中状態をつくり、場がかなり温まった。本当に楽しい時間であった。オンラインだからこそ、詠んだ札がどの札なのかスタッフの先生が見せることは、子どもの安心感につながると思った。

次に、水本先生、郡司先生の五色百人一首の体験

取った札をカメラに見せる練習を兼ねて、水本先生や郡司先生の詠み方は本当に勉強になった。最初はゆっくりと、楽しく、徐々にルールを入れていく。札を1～10、11～20の半分にわけて、1回に5枚取らせていく。

茨城県では月に1度五色百人一首のオンライン練習会をやっていると伺った。

そのノウハウを学ばせていただきたいと思った。

最後に、私と宮森先生とのブレイクアウトルーム

宮森先生とLINEでやり取りし、私がアイスブレイクを担当することになった。

自己紹介後にアイスブレイクそのあと、百人一首に取り組む

15分間の組み立ての中で、

私がやるアイスブレイクは2分ほどでやらないといけない場面で3分くらい使ってしまった。

実際に子供にオンラインで教えるのは難しいから、たけのこによっきのパワポを10分でつくり、OBSで自分の画面に映した。

このようなときのレクは、対決より親和性を高めるものがいい。

さらに、時間が限られている中で、画面共有はやってはいけない。

OBSは役に立つ。今までのオンラインでの学びを活かすことができた。

オンラインで他の子と楽しめることができたなら、やってよかった。

宮森先生の詠み方は、本当に勉強になる。

小6、中1の子4名であり百人一首に慣れている。

だから、最初だけゆっくりやり、あとはどんどんペースを上げて、青札・緑札に取り組んだ。

最後は、高速詠みでやったが子供たちはついてくる。学年に合わせて少し背伸びしたことをやる。

宮森先生の組み立てを見て学ばせていただいた。

また、次回も参加したい。

今回読み札を忘れたので、次回は忘れないようにしないと。

参加された皆さま、水本先生、本日はありがとうございました。

## ●東日本会場 郡司崇人先生

「たのしい」「また参加したい」「ありがとうございました」の感想がチャットに流れ続けました。

こんなにたのしいなんて！

オンライン五色百人一首・交流会＜東日本オンライン会場＞は大成功に終わりました。

### 1 継承

百人一首の学びを止めない(橋本理事より)

橋本信介先生、水本和希先生らの理事の運営のもと、スムーズに進んだ。定期的に全国や東日本、関東みたいなくくりで開催が続くとおもしろい。

### 2 運動

1 各地でオンライン大会の開催(少人数から始めて行く)

2 各都道府県のカルタ協会への後援、連携(相互の催し物に参加者を増やす)

3 伝統文化親子教室の開催

### 3 蓄積

SNSで行う

様々な知恵を言語化し、蓄積したいしました。

## 感想

大人数での交流会、楽しかったです。運営、ありがとうございました。水本先生は特に、連絡調整、大変だったと思います。橋本先生の「百人一首の学びを止めない」「クロスボーダー(各都道府県のカルタ協会への後援申請、事業連携)」につきると思います。運動して参ります。ありがとうございました。

## 意見

- 1 協会主催での3地区同時開催は価値が大きい。
- 2 再び、47都道府県の同時開催を目指したいです。そのために今回の3地区から8地区、16地区などと増やしていても面白いのかなと思います。あるいは、シャッフルして、北海道、茨城、三重、鹿児島みたいに。その際は、先行してやっているところとそうでないところを混ぜるとノウハウが伝わっていいと思います。
- 3 いずれにしても、各県で工夫を凝らして実施し、それを集約する回があり、また別個に進化をとげ、また集まるみたいなシステムに興味があります。

茨城からは、Y先生、O先生、郡司の3名がスタッフとして参加しました。

## ●東日本会場 水本和希

コロナ禍により、緊急事態宣言下ではあったが、  
オンラインなら、接触を気にせずに五色百人一首大会を開催できる。

中日本事務局は、静岡の中島康先生  
西日本事務局は、大阪の原田朋哉先生  
東日本事務局は、水本が担当した。

初めての地方大会という取り組みにおいて、事務局長を引き受けてくださったお二人には感謝しかない。事前の練習会やテレビ局とのタイアップなど、大変緻密かつダイナミックに運営してくださった。本当にありがとうございました。

東日本会場は  
最年長は中学校1年生。小学校6、5、4、3、2、1年生に加えて  
幼稚園児の参加もあった。  
さらに、東日本は13名のスタッフの先生方が集まってくださった。  
当日の運営にたくさんの力をお借りした。

当日のプログラムは、下記の流れで行った。

- 1) 五色百人一首を使った レク(五色百人一首ビンゴ)  
五色百人一首のレクは、神奈川のS先生。  
明るく、楽しく、年齢にかかわらず熱中できる運び。  
これだけでも1時間盛り上がりそうな素晴らしい時間だった。
- 2) 五色百人一首 体験(10枚・2?3回)  
水本が1回→茨城の郡司崇人先生が2回  
郡司先生の詠みがとっても勉強になった。  
スピード調整、手の置く位置、取り方・並べ方などなど  
オンラインにおいてもこうした微細技術は力を発揮する。
- 3) 五色百人一首 プレ対戦(1部屋5名程度のブレイクアウトルームに分かれて)  
7つのブレイクアウトルームに分かれて、五色百人一首交流。  
1つのルームに、2名のスタッフと3?4名の子どもが参加。  
なるべく、学年別になるように、手動で部屋を分けていった。  
15分間の交流という時間設定、2人のスタッフで読み手とサポートの分担  
ゆとりのある運営システムとして機能して、一安心。  
各部屋のスタッフの先生方が、学年に応じて読み方、進め方を柔軟に組み立ててくださった。

ブレイクアウトルーム終了後

- 1) 今後の県大会の案内
- 2) アンケートのお願い
- 3) 賞状の提示
- 4) 名人・クイーンの受賞ニュース

最後は、岡先生の提案で、「好きな札を1枚持って」記念撮影！  
笑顔で終了となった！

今回事務局のスタッフとして参加して下さった  
先生方のお一人でも欠けていたら、  
今回のオンライン交流会を開催することはできなかった。

今回の地方大会は  
子供たちの笑顔とともに、「五色百人一首を広める」ことが目的である。  
今回の地方大会をきっかけに、今後各地・各県で開催するためのイメージやノウハウを共有する。  
これも今回のねらいの一つだった。

参加して下さった先生方が、  
また各地・各県でオンライン五色百人一首の大会を試行して下さることによって、  
今後の地方大会、あるいは、全国大会が盛り上がっていく。

その一つのきっかけとなる地方大会を今回開催することができてよかった。皆様、ありがとうございました。

## ●東日本会場 宮森裕太先生

スタッフとして参加させてもらった。  
水本先生のスムーズな進行  
S先生のレク。盛り上げ方を学んだ。  
N先生の個別の声掛け  
郡司先生の読みの変化をつけた指示の出し方。スピード調整。  
スタッフの先生方から学ばせてもらった。

ちょうどブレイクアウトでの仕事を読み手だったので、  
郡司先生の読みからたくさん学んだ。  
はじめは5枚ゆっくり読み、画面上に出させて確認する。  
そして次の5枚では速く読む。

つぎの札では、ミュートを外させ「はい」と言わせる。  
最後の3枚になると、「裏を見ていい」「手はひざ」と札をとれる工夫、ルールの確認をしていた。  
一時一事で幼稚園から中学校までいたが、混乱なく進んでいった。

ブレイクアウトでは野村先生と一緒にやらせてもらった。  
Line上で野村先生とレクや自己紹介について打ち合わせ。  
野村先生はブレイクアウトまでにコンテンツを作ってくれた。  
さすがの仕事だった。

私は読みの担当。  
小6年・中1の子4名の子が参加してくれた。  
全体の練習で早く取れることを見ていたので、  
スピードを速くして何回もできるようにした。



練習でやっていた青の後半。  
近くに保護者が見えたので、青がもうすぐ終わりそうというところで緑をやることを告げた。  
そうすることですぐに準備してもらった。  
また、残り4枚であえて「ちはやぶる」を残して、それをとらせた。(笑)

残り1分あったので高速読みを実施。  
レベルが高かったのでもこまですることができた。

オンラインで不安なところもあったが、  
水本先生をはじめとしたスタッフの先生のおかげで大盛会だった。  
ありがとうございました。

以上

